

<インターンシップレポート>

奨学生からのメッセージ No.1

埼玉大学4年 小島紗絵子

・インターンシップの内容

1日目のオリエンテーション時にビジネスマナーや日米教育委員会について説明を受けた後、3つのmissionを与えられました。

1つ目は、2日目と4日目に行われる留学セミナーのお手伝いと説明会の様子をブログで紹介するために原稿を作ること。留学説明会では、受付をお手伝いした後、会場に入り説明会の内容についてメモを取ったり、写真を撮ったりしました。その後、ブログ用の原稿を他のインターンシップ生と分担してまとめました。

2つ目は、各州の各教育機関別に最低・最高授業料、および、最高・最低生活費を調べる事。膨大な数の大学の授業料と生活費をそれぞれ比べるとというリサーチのお仕事を手伝わせて頂きました。

3つ目は、渡米前オリエンテーションでの参加者アンケートの一部をブログで紹介できるようにまとめること。留学の情報をどのようにして入手したかという質問と、留学準備でどのような工夫をしたかという質問をまとめ、最後に自分の経験も踏まえたコメントを載せました。

・インターンシップを経験した感想

初めてお会いした方達と一緒にお仕事をするということは緊張しましたが、担当して下さった二人の方はとても丁寧に説明をして下さり、仕事内容も充実していました。また、日米教育委員会がどのような仕事をしているのか、働くことがどういうことなのかを学ぶ事が出来ました。私は特に、留学支援ということに興味があったので、お二人の経験談も伺うことが出来、大きな収穫となりました。

私の他にインターンシップ生が2人いましたが、3人で仕事を分担しながら効率的に仕事を進めることができました。一緒に意見を交わしながら仕事をしていると、仕事の面白さはこういう所なのかなと実感することが出来ました。

日米教育委員会の大きな特徴の一つは、働いている方のほぼ全員がアメリカ留学経験者であることです。同じ経験をした人とお話することは自分の留学を振り返ることに役立ちました。インターン生の間でも休み時間は留学の会話が弾み、とても楽しかったです。

仕事の中で一番印象的だったのは、高校生のための留学説明会のときに来た高校生の目がキラキラしていたことです。まだ高校生で、先のこともよく分からない状況かもしれないけど、自分で足を運んで説明を聞きに来る姿を見て、留学支援は留学を考える人の役に立っていて、その人の人生を変える1つの要素になり得るのだなと、この仕事の重みを感じました。

・得られた成果

このインターンシップにより、“働くとはどういうことだろう？”と疑問を抱いていた状態から少しステップアップして、働くことの楽しみ、喜び、大変さ、地道さを学びました。特にリサーチの作業は本当に地道な作業でした。しかし、その地道な作業の積み重ねが仕事であるのだなと思いました。そして、仕上がったものが誰かの役に立つという喜びもまた、仕事へのモチベーションを上げるもので、やりがいなのではないかと思いました。

次に、タイムマネジメントの重要性を学びました。最初は仕事に慣れず、何を書けば良いかと悩み、無駄になった時間が多くありましたが、締め切りに頼まれた仕事を終わらせるということについても意識していなければいけないと反省しました。

その他には、コミュニケーションをとれば得られることも多いし、仕事が効率的に進むということに気付いたことです。自分の仕事状況を伝えたり、相手の状況を見て次に何をすべきか考えたりすることは、この先どの会社に勤めたとしても役に立つ事だと思えます。

・今後の課題、目標

今回のインターンシップで得た経験を活かして、これからの就職活動に活かしたいです。3つのmissionを通して、自分の得意分野と不得意分野も少し見えてきたので、それを自己分析の一つに加えたいです。他の大学の人や会社の方と話す事によって、自分が見てきた世界ではなく、もっと広い世界があると改めて感じました。これからは、もっと積極的に行動して行きたいと思いました。”とにかくやってみる”という精神でいろんなことへ挑戦していき、また新しい自分を発見したいです。